

## 14 ジョック・ギレスピーの陥落

晩飯もとっくに終わり

賭けトランプの一回戦と二回戦の間  
俺たちの人気者ジョックが  
クラブハウスの奥の部屋へのご帰館だ

ジョックは笑い唄い 大層なご機嫌 5  
俺たちや ジョックが酔ってると思った  
ジョックは 相棒の勝ち札を切っちゃって  
そいつはといや 真っ青だ

兄貴分が ジョックに言った 10  
手にスペードのエースを持ったまま  
「おいおい その顔の照り どこでつけてきた  
隠しても洩れるその照りは」

ジョックは ニヤニヤ ニタニタ 15  
持ち札越しに ウインクした  
「別れの一杯 ひっかけたのさ  
それでちょっくら まわったかな」

「ギャラシールズの ウィスキーは上物だ 20  
近くの三つエル印のウィスキーもな  
だが どんな上物も ぎらぎら光を出さんぞ  
お前の目から 放たれるような

「お前の服の胸に 髪の毛が一本ついとるぞ  
心臓のちょっと上のあたりだ」  
「ああ これは ふさふさしたスカイ・テリヤが  
俺をペロペロなめやがったんだ」

「毛の長いスカイ・テリヤは 可愛いやつだ 25

テリヤってやつは 立派な犬だ  
だがこれまで そんなテリヤは見たことないぞ  
一メートルもある金髪はやしたテリヤなど

「胸に <sup>おしろい</sup>お白粉がついとるぞ  
左の襟のすぐ下だ」 30  
「これはおいらの 愛用の葉巻の灰だ  
先からこぼれ落ちたんだ」

「おいジョック おまえの吸うのはトリチの安葉巻  
いつもからっけつで ピーピーしとる  
最高のハバナだって 出すもんか 35  
そんなに白い灰なんぞ

「今夜のお前の話は いい加減なことばかり  
くそ面白くもねえ嘘で固めやがって  
昨日の晩もその話だ  
たちの悪い嘘ばかりこきやがって 40

「俺たちや 酔ってなんかいるもんか  
すっかり お見通しだ  
お前は 陥落寸前だ  
気のいい 独りものの仲間から

<sup>ねむ</sup>合歡の葉が 黄ばむ頃 45  
夏も過ぎ 夜が長く 暗くなる頃  
<sup>あら</sup>新のズボンでめかしこみ 金の指輪を携えて  
俺たちの人気者ジョックは 教会へ行ったとさ

(榊井幹生訳)